県立川崎高等学校

令和５年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 （３月 13 日実施）	総合評価（３月 29 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①生徒にとってより望ましい進路を実現するために、新学習指導要領の教育課程の編成と履修指導の工夫に取り組む。 ②学習意欲を高めるための生徒の「主体的・対話的で深い学び」を積極的に取り入れた授業改善を進める。	①新学習指導要領の３年目の完成年度を迎えるにあたり、多様な生徒の学びの保障と希望進路の実現のために、さらに充実した履修指導を行う。 ②様々な教授法や ICT 機器を有効活用し、学習内容の定着を図り、各教科、総合的な探究の時間を中心とした学びの中において SDGs の視点を養わせる。	①定期試験や学校行事等の実施時期や在り方について関連グループと連携し検討した年間行事予定を実施するなかでの問題点等の検討をする。また、生徒の希望進路の実現のために、キャリアグループと連携し履修指導の充実を一層図る。 ②ICT 機器を活用する方法を教員間で共有したり、授業改善に向けた研修を実施する。また、生徒の SDGs に対する意識を高めるように教員間で連携する。	①教育目標を実現するための教育課程を実施することができたか。関係グループと連携し掲げた目標を実現することができたか。 ②ICT 機器を教育活動で積極的に活用し、よりよい授業を実施できたか。 SDGs を身近な問題として意識させ、学びを深めることができたか。	①７月の前期期末試験については、授業時数のバランス等において問題がある。しかし、現在の入試状況を考えると仮評価を出すことが必要になるので、変更することはできない。 履修指導について、現行の学習指導要領に合わせて、問題なくできている。 ②ICT 機器研修会や授業公開期間を設け、教員の授業力向上を図った。モニターやクロムブックなどの ICT 機器を活用して授業を実施する教員が増えている。総合的な探究の時間では、各種講演会を実施した。また、全日制では、生徒全員がＳＤＧｓについて調べ学習・スライド作成を行い、クラスで発表した。	①再来年度の入試科目の予定が出てきている中で実施状況を確認して、履修指導に当たる必要がある。また、共通テストの数学Ｂ、数学Ｃが必要になるので履修順序の検討が必要になる。 ②ICT 機器が授業に必須であるという前提で教育活動に臨めるように、教員間のさらなる連携・協力、意識の向上が必要である。 次年度はＳＤＧｓ指定校６年目であり、仕上げの年度になるので、実施内容の準備・計画を行い、有意義な内容とする。	①生徒の進路実現のために前期期末試験の日程を９月から７月に変更したことは理解できる。生徒にとって不利にならないように検討を継続してもらいたい。履修指導についても生徒の進路実現に向けて取り組んでもらいたい。 ②ICT 機器を活用した授業を行っていることは理解した。生徒１人１台端末の利用については、教員間で連携し研究を継続する必要がある。SDGｓの学習成果を生徒の進路や学習につなげてもらいたい。	①卒年次の総合型選抜、学校推薦型選抜に対応するため、前期期末試験の時期の変更は難しい。 履修指導について、問題なく実施できた。 ②ICT 機器を授業内で積極的に活用できているが、１人１台端末の活用状況については、不十分である。教員間で活用方法を教え合い、授業内での活用を推進する。総合的な探究の時間において、各課程、年次毎に適した題材・内容を取り上げて、SDGｓの学習に励むことができた。SDGｓ探究学習は、生徒が興味を持って、調べ学習に臨むことができた。	①履修指導について、継続できるように学務グループのメンバーをはじめ、職員全体に教育課程の理解を求める。 ②ICT 推進委員会を中心に ICT 機器活用研修会を実施し、教員間で連携し、教員の ICT 機器活用能力を高める。SDGｓへの取り組みは、学校の教育活動全体で実施できるように、総合的な探究の時間の企画・実施に加え、各教科や特別活動でも SDGｓを取り上げる。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	①生徒指導・外国人支援・教育相談・地域との連携の充実を図る。 ②生徒がお互いを尊重し、協力できる体制を構築する。	①各種研修会、年次集会を通して、生徒の規範意識の向上を図る。 SC・SSW・多文化コーディネーターとの連携を図り、円滑な支援を目指す。 ②感染症対策緩和に応じた学校行事のあり方を検討し、着実に実施していく。 また、行事への生徒の関わりを増やし、協力体制を構築する。	①各年次で計画的な研修を実施する。また年次の生徒の状況を踏まえて集会等での継続的な指導を行う。教員研修等を行い、教職員の教育相談的視点とスキルの向上を図り、円滑な外部連携に繋げる。 ②学校行事のあり方や時期を生徒の意見を集約する。また、生徒会、実行委員会で検討し、生徒の主体性を引き出せる形で実施する。	①各年次で研修会を実施できたか。生徒状況を集約し、各年次の生徒指導に活かすことができたか。校内の要支援者を把握し、必要な支援につなげることができたか。 ②一人ひとりの行事の振り返りを検証し、達成感や満足感を高めて実施できたか。本校の満足度調査の「学校行事に満足していますか」において、昨年度より満足した割合が増えたか。	①各年次で計画的な研修を実施した。外国人支援に関する課題を集約することができた。SC による教育相談研修会をオンデマンド形式で実施した。 ②体育祭、文化祭ともに全校生徒（全日制・定時制）へのアンケートを実施した。それらを集約し、生徒会でまとめ、検討が必要な項目を精選した。時期や業務内容は他グループとの連絡調整中である。	①引き続き継続的な指導を行い、生徒の規範意識の向上を図る。外国人支援に関する校内体制について、業務を精査し、円滑な支援に繋がるよう業務分担の調整を図る。 ②行事の時期については、年間計画と授業時数とのバランスを考慮し、適切な時期に設定する必要がある。また、体育祭・文化祭については、目的と目標を切り分け、生徒の主体性を引き出す運営を心掛ける。	①サポートドックの活用や SC・SSW との連携を図った教育相談が生徒にとってよい効果となることを期待する。外国につながりのある生徒への支援体制をさらに強化してもらいたい。日本語能力差がある生徒への対応を継続してもらいたい。 ②制限のない学校行事が可能になり、生徒が積極的に参加できる体制を強化してもらいたい。	①各年次で連携を図りながら継続的な生活指導を行うことができた。特別指導(全日)や近隣からの苦情は減少したが、交通事故、遅刻、ID 忘れなどの指導件数は年間を通じて変化がなかった。教育相談においては、サポートドックも活用し、新たな切り口で支援に繋げることができた。外国人支援においては、日本語能力差に対応する学習支援の取組が課題である。 ②体育祭、文化祭ともにアンケート結果は良好であった。コロナ禍あけで、制限が緩められ、さまざまな意見が挙げられた。各パート、部活動、生徒会の担当の改善点を来年度に生かしたい。	①生徒の自主自律を促せるよう、継続的な生活指導を行うとともに、繰り返し生活指導の対象となる生徒に対して、教育相談を勧めるなど多面的な支援を検討する。外国人支援においては、個別から一般講座への移動や、日本語講座の展開について再検討する。 ②体育祭、文化祭ともに、今までの経緯を踏まえて様々なパターンを考えた。総合的な探究の時間や他の行事との兼ね合いを考慮して、メリットとデメリットをあげ、総合的に判断して決定した。 生徒の主体性を引き出すために、実行委員内の組織を再編した。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 29 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月 13 日実施）	成果と課題	改善方策等
３	進路指導・支援	情報化社会の中で生徒が自己実現と自立を果たすため、望ましい職業観等に基づいたキャリアを持続的に形成できるように、キャリア教育の充実と進路支援体制の構築を図る。	①生徒自らキャリアデザイン・キャリア形成ができるようになるための進路指導に取り組む。 ②生徒自ら必要な進路情報を入手できるように情報発信を随時行う。 ③進路相談室と自習室の利用者人数を上げる。	①入試講義、分野講演、学校紹介、模擬授業等の分科会を多く設定し、進学に対する意識の向上や職業観の育成に結び付く進路ガイダンスを行う。 ②川崎高校キャリア支援ポータルサイト、Google Workspace 等を活用して進路に関する情報を細かく発信する。 ③進路相談室の開放回数を上げ、自習室と合わせて快適な空間になるように環境整備する。	①生徒自らキャリアデザイン・キャリア形成ができているか。 ②生徒自ら必要な進路情報を入手してそれぞれの進路に応じた行動が取れていたか。 ③利用者人数が上がったか。	①各課程別に、それぞれの年次に合わせた進路ガイダンスを設定した。コロナ禍前の体験授業やワークショップ等も実施できた。 ②Google Work Space を活用することで、進路情報を発信できた。特に、卒年次においては全日制・定時制合同のクラスルームを開設し、共通の情報が届くように工夫した。 ③昨年度までは、週２回の開放だったが、面談等の行列を避けるため予約制を取っていた。卒年次を中心に気軽に利用できるようにした。	①進路ガイダンスをイベントで終わらせるのではなく、普段の学校生活に繋がるものにしていきたい。学習習慣や進路意識等に効果が表れるように計画していく。 ②Google Work Space を活用した進路情報の提供や発信については十分できている。他のツールや発信の仕方を工夫する等を検討していきたい。 ③卒年次では、求人票公開時期や年内入試の受験期で利用者が多かった。一方で、１・２年次の利用者が少ない。今後は、１・２年次にも進路相談室の利用を促し、該当年次に適切な情報を提供したい。	①様々な進路へ対応するために進路ガイダンス等を定期的に行っており、評価できる。 ②生徒が求めている情報を確実に把握し、迅速に情報提供できる体制の強化を進めてもらいたい。 ③進路相談室を整理し、生徒が活用しやすい環境を提供していることは評価できる。１、２年次にも情報提供し、利用回数を増加してもらいたい。	①各課程、年次に合わせたガイダンスを実施することができた。今後も高校３年間を見据えた進路ガイダンスを企画していきたい。ガイダンス前の意識付けや、後の振り返りについては工夫が必要である。 ②主にクラスルームを活用し、進路情報を発信することができた。特に、卒年次において全定合同のクラスルームを開設することで、課程による情報の偏りを防ぐことができたため、今後も継続していきたい。 ③進路室当番を決め、開かれた進路室を心がけた。卒年次の利用が多かったが、１、２年次の利用は少なかったため、今後の課題である。	①進路ガイダンスを行う意義をグループ・年次で共有し、生徒に伝えていく。また、業者とも綿密に打ち合わせを行い、ガイダンス前後の内容も含めて検討していく。 ②クラスルームに加え、生徒の目に入るよう、インフォメーションボードや進路室周辺の掲示を工夫していく。 ③進路室当番は継続し、進路室の存在をより広く知ってもらうために、三者面談期間なども活用していく。
４	地域等との協働	地域を通して社会に貢献し、積極的に地域と協働できる学校作りを進める。	①他グループと連携しながら学校 HP を更に整備し、学校の特色と魅力を地域へわかりやすく発信する。	①昨年に引き続き、入学希望者のページを充実したものにすると同時に、トップページを整理し、わかりやすくする。また、定時制の情報が埋もれぬよう改善する。	①学校 HP や説明会等の学校教育活動全体を通して、学校の特色や魅力を理解してもらえたか。	①学校ＨＰについて、特に「入学希望者の方へ」のページを見やすくするとともに、情報発信を早くすることができた。また、事前に学校動画を見てから参加する人が圧倒的に増えた。	①入選情報等については、常に最新の情報発信を心がける。コロナ禍以降の説明会等のあり方について、再検討の必要がある。	①説明会等の充実で、定時制の競争率が出たことは評価できる。 周辺の中学校からの入学割合はどうか。 →定時は授業が夜遅くまであるため、近い学校から来る者が多いが全日は少し遠いところからも来ている。	①地域との連携、魅力の発信に注力してきた。コロナによる制限が緩和され、今までできていなかった規模での説明会や見学会の実施ができた。アンケートの評判も良かった。事前に学校の説明動画を YouTube などに掲載しスムーズかつ内容のある実施ができた半面、コロナ前の内容との融合が必要な部分が課題として浮かび上がった。	①コロナ前の実施内容を精査し、コロナ禍で定着した、ＨＰでの動画配信等の利便性を考慮しつつ、実際の授業の様子や生徒自身からの情報発信を積極的に検討していく。
５	学校管理 学校運営	生徒、保護者、地域社会に信頼される学校運営を行う。	①生徒・職員の防災に対する意識を高めるための効果的な施策を構築していく	①避難訓練だけでなく、防災についての広報を年間を通じて実施する ②職員に対してＤＩＧなどの研修を実施していく	①防災に対する広報活動が効果的に実施できたか。 ②研修等を通して職員の防災に対する意識と対応力がたかまったか。	①避難訓練について授業中に実施し、教諭・講師・生徒がより実際の状況に近い形で避難方法や動きを確認することができた。 ②ＤＩＧを実施し、消防署の指導をフィードバックしながら教員・生徒に机上における避難経路の確認を実施した。また、12 月には教員向けマニュアルについての研修を実施し、災害時の学校全体としての動きを確認できた。	①避難訓練については、さまざまな状況に応じた形での避難訓練を行っていく。生徒への情報提供についても有効な手立てを考えていく。 ②研修において、マニュアルの内容の確認だけでなく、マニュアルに沿った職員の動きを実際に実施して、有事の際行動できるようにしていく。	①防災訓練の授業内での実施や、防災研修の実施は評価できる。 教育環境の整備、防災やＩＣＴの整備を引き続き継続してもらいたい。 ②職員の防災に対する意識を高める取組を継続してもらいたい。	①効果的な防災訓練等を実施することができたが、さまざまな状況に応じた訓練の必要がある。 ②消防署や危機管理課と協働し、生徒向けＤＩＧや学校防災マニュアルを用いて職員研修を行い、防災力の向上を図ることができたが、有事の際に行動できるようにしていく。	①最先端の防災研究を踏まえた、より実践的な防災訓練等を計画・実施していく。 ②ＤＩＧや研修を行う際、マニュアル等に沿った“実際の動き”を入れた形で計画・実施していく。